

2018 年度 第 49 回ジュニアオリンピック陸上競技大会県予選会 実施要項

- 1 主 催 一般財団法人青森陸上競技協会
 2 共 催 青森県高等学校体育連盟陸上競技専門部
 3 後 援 青森県教育委員会・公益財団法人青森県体育協会・青森県中学校体育連盟
 4 主 管 一般財団法人青森陸上競技協会・弘前市陸上競技協会
 5 協 力 弘前市内中学校陸上競技部
 6 期 日 2018 年 8 月 25 日（土）
 7 場 所 弘前運動公園陸上競技場（〒036-8101 弘前市大字豊田 2 丁目 3）
 8 競技開始 9：00～（8：30 開会式） ※監督会議は行わない
 9 種 目 [男子] A・・・100m、200m、3000m、110mJH、走高跳、砲丸投
 B・・・100m、1500m、110mH、走幅跳、砲丸投
 C・・・100m、1500m、走幅跳
 A B C 共通・・・円盤投、ジャベリックスロー
 [女子] A・・・100m、200m、3000m、100mYH、走高跳、砲丸投
 B・・・100m、1500m、100mH、走幅跳、砲丸投
 C・・・100m、800m、走幅跳
 A B C 共通・・・円盤投、ジャベリックスロー

※ハードル種目

クラス	高 さ	ハードル間	クラス	高 さ	ハードル間
A男子	0.991m	9.14m	A女子	0.762m	8.50m
B男子	0.914m	9.14m	B女子	0.762m	8.00m

※投てき物の重量

クラス	男 子		女 子	
	種 目	重 量	種 目	重 量
A	砲丸投	5.000kg	砲丸投	4.000kg
B	砲丸投	4.000kg	砲丸投	2.721kg
A・B・C	円盤投	1.500kg	円盤投	1.000kg
共通	ジャベリック	0.300kg	ジャベリック	0.300kg

10 参加資格

- (1) 2018 年度の青森陸上競技協会に登録し、参加料・登録料を納入した者。
 (2) 選手の年齢基準は以下のとおりする。 **※新基準**

●Aクラス

- (高校 1 年生) : 2003 (平成 15) 年 1 月 1 日生～2003 (平成 15) 4 月 1 日生
 (中学 3 年生) : 2003 (平成 15) 年 4 月 2 日生～2003 (平成 15) 12 月 31 日生

●Bクラス

- (中学 3 年生) : 2004 (平成 16) 年 1 月 1 日生～2004 (平成 16) 4 月 1 日生
 (中学 2 年生) : 2004 (平成 16) 年 4 月 2 日生～2004 (平成 16) 12 月 31 日生

●Cクラス

(中学2年生) : 2005 (平成17) 年1月1日生~2005 (平成17) 4月1日生

(中学1年生) : 2005 (平成17) 年4月2日生~2006 (平成18) 4月1日生

※中学1年生の早生まれ含む

11 出場制限

- (1) 一人1種目とし、全国大会へ出場する意志がある選手に限る。
(2) 全国大会の県選抜リレーに出場意思がある選手のみ 100m と兼ねることができる。その場合 (100mと他1種目の2種目出場の場合)、100m で1位~2位になるとリレーメンバーの選考対象とされる。(以下参照)。

①100m で1~2位、100m 以外の種目で1位 → 100m 以外の種目とリレー

②100m で1位、100m 以外の種目で2位以下 → 100m とリレー

12 申し込み

メールにて7月31日(火) 23:59 まで必着で申し込んで下さい。

青森陸上競技協会HP (<http://www.jomon.ne.jp/~arikkyo/>) を参照し、青森陸上競技協会競技部まで申し込んでください。

【申込専用メールアドレス】 jolympic2018@mutsu-rk.jp

登録者(代表者)に、メールで申込ファイルを送信いたします。メール受信者側のパソコン環境によって、迷惑メールフォルダ等に送付されている場合があります。申込締切1週間前になっても申込ファイルが届かない場合は、申込締切に間に合うように、下記の【申し込みに関する問い合わせ先】まで連絡ください。

申込ファイルに、参加者を入力し、申込専用メールアドレスに送信して下さい。メールアドレスは、大会毎に異なりますので、ご確認願います。参加料は各団体で取りまとめた上、団体名(振込人名)がわかるように振り込んでください。

【申し込み注意点】

○大会申込作業を代行会社に委託しているため、申込締切後、申込変更(ナンバー、氏名、所属、学年、生年月日、種目等)や申込遅延などの受付はできません。当日の追加・訂正も受け付けません。

○申込ファイルについて、様式(セル内の数式、ロック)を変更せずに入力してください。変更した場合、申込ファイルを受付できません。

○申込を受付した際、必ず業者からその旨を伝えるメールが返信されます。そのメールの受信を必ず確認してください。返信メールがない場合は、受付が完了していない可能性があります。

○生年月日と参加するクラスについて、間違いがないか必ず確認してください。

○登録番号(ナンバーカード)の入力について

・昨年度の登録番号を忘れずに入力してください。

・新中学1年生や2017年度未登録者、登録番号の不足については、入力しないでください。その番号については、事務局で割り当てし、連絡いたします。

【申し込みに関する問い合わせ先】 ※メールのみ対応

青森陸上競技協会競技部 石崎光晴 higashidoori_chuu01@sunny.ocn.ne.jp

13 参加料

1 種目 1,000 円

必ず申し込みと同時（同日中）に、銀行振込で納入してください。学校事情などで、申し込みと同時に納入ができない場合は、必ず担当者までご連絡ください。

【振込先】 青森銀行 新町（シンマチ）支店 普通 3043158 青森陸上競技協会競技部 代表 川下 友徳
--

※手数料は、各学校で負担してください。振り込みの際は、全ての個人種目数・リレーチーム数のエントリー分の参加料を合計した金額を、一括して振り込むこと。

※振込名は、通帳記帳の印字に制限があるため、学校名が判別できるように入力してください。

振込名はプログラム記載学校名が望ましいです。

例 1) 青森市立沖館中学校の場合、青森市立はつけないで、「オキダテチュウ」等のように入力する。

例 2) 一・二・三や東西南北が付く中学校は市町村も付けて入力する。

弘前市立第一中学校 → ×「イチチュウ」 ○「ヒロサキイチチュウ」等

八戸市立東中学校 → ×「ヒガシチュウ」 ○「ハチノヘヒガシチュウ」等

例 3) 同一の中学校名は市町村を付けて入力する。

むつ市立川内中学校 → ×「カワウチチュウ」 ○「ムツカワウチチュウ」等

※参加料の振込先と選手登録料『青森県競技者登録』の振込先は異なります。間違えて振り込むことのないようご注意ください。なお、申込締切後、個人・団体・学校事情等による参加料の返金には応じられませんのでご了承ください。

14 参加料の領収書について

参加料は銀行振込のため、銀行振込明細書をもって参加料の領収書の発行に代えます。銀行振込明細書が税務上も正規の領収書となります。ただし、参加団体で銀行振込明細書とは別に、領収書の発行を希望する場合は、青森陸上競技協会HPより「領収書」の様式をダウンロードし、必要事項を記入の上、銀行振込明細書とともに受付に持参ください。受付にて内容を確認の上、押印して領収書をお渡しします。

15 申込状況の確認

申し込み状況及び参加料の振り込み状況は、青森陸上競技協会HPで確認できます。担当者が手作業で行うため、HPに掲載されるまで時間がかかることもあります。

16 全国大会について

(1) 大会名：第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会

(2) 期日：2018年10月12日（金）～14日（日）

(3) 場所：日産スタジアム（神奈川県横浜市港北区小机町3300）

(4) 参加資格：2018年4月1日～2018年9月3日の公認競技会において参加標準記録を突破した選手、またはジュニアオリンピック陸上競技大会県予選会での最上位の選手を選考対象とし、**青森陸上競技協会代表選手選考委員会**で決定する。9月上旬には、所属校に文書で知らせる。

(5) 全国大会への参加について、青森陸上競技協会から以下を提供・補助する。

①全国大会への参加申込の業務及び全ての参加料

②選手の遠征費の一部（選手1名につき1万円）

③リレーチームには青森県チームのユニフォーム上下（最大6名分）

17 選手選考 について

- (1) 2018年4月1日～8月24日までの公認競技会において、参加標準記録を突破している選手は、この大会に出場しなくても全国大会への出場資格がある。室内競技会の記録は認めない。
- (2) 高校生は、参加標準記録を突破した選手のみ全国大会への出場資格を得る。
- (3) 中学生の標準記録の突破者がいない種目については、それぞれの種目ごとに1名は全国大会に出場できる。
 - ①同一クラスの同一種目に中学生が2名以上出場する場合は、すべての競技者が公認競技会で参加標準記録を突破していること。
 - ②Aクラスにおいては、高校1年生の出場がある場合でも、中学3年生の標準記録突破者がいない場合には、中学3年生1名が出場できる。
- (4) A・B・C共通（円盤投、ジャベリックスロー、リレー）については、中学生のみとし、高校生は対象としない。
- (5) 参加標準記録を設けない種目について（男女ABC共通ジャベリックスロー）は、全国大会に各都道府県から中学生1名のみ出場できる。
- (6) 男女の県選抜4×100mRの選手選考は、青森陸上競技協会の代表選手選考委員会で決定する。リレーの選手選考基準は、以下の通りである。
 - ①2018年度第49回ジュニアオリンピック県予選会に出場している。
 - ②2018年度第49回ジュニアオリンピック県予選会100mで1位～2位の選手。※Aクラス、Bクラス、Cクラスから基本的に2名ずつ選抜する。
※県選抜リレーチームに選抜された選手は、全国大会前に練習会を行う。練習会の日程や詳細については、後日、文書で知らせる。
- (7) 参加資格および選考基準を満たした者は、全国大会参加の手続きを行うこと。

18 表 彰 第1位～第8位までを表彰する。

19 その他

- ・各参加団体にスポーツ障害保険等に加入の上、本大会に参加すること。
- ・本競技会で得た個人情報については、個人情報の保護に関する法律を遵守し、競技運営に必要な連絡などに利用する。また、運営や宣伝などの目的で、プログラムやインターネットなどの媒体に掲載することもある。
- ・用具は、原則として競技場備え付けの物を使用する。
- ・組み合わせは、機械による公平な抽選をして決定する。
- ・競技日程（タイムテーブル）については、「案」を青森陸上競技協会HPに掲載する。申込締切後、競技時刻などが確定次第、「確定版」を掲載します。「確定版」の掲載は8月20日（月）以降の予定。
- ・主競技場について、大会前日の8月23日（金）13時～17時までは他の競技団体の利用予約が入っている。利用する場合は、競技場に確認の上、ご利用ください。なお、利用料金については、各団体での負担となる。
- ・テント設営（確保も含む）は、公平性を保つために8月25日（土）の開門6:30以降とする。（設営場所は、中体連が作成する2018年度テント割りを参考）
- ・砲丸投に限り、本競技場の投擲ピットで投擲練習を行うことができる。

第49回ジュニアオリンピック競技大会 参加標準記録一覧表
2018年10月12日～14日（日産スタジアム・神奈川県）

2018.7.16 現在

区分	男 子			女 子		
	種 目	参加標準記録	参加標準記録 突破者	種 目	参加標準記録	参加標準記録 突破者
A	100m	10 秒 90		100m	12 秒 30	
	200m	22 秒 40		200m	25 秒 40	
	3000m	8 分 46 秒 00		3000m	9 分 51 秒 00	
	110mJH (0.914m/9.14m)	14 秒 40		100mYH (0.762m/8.00m)	14 秒 30	
	(0.991m/9.14m)	15 秒 10		(0.762m/8.50m)	14 秒 60	
	走 高 跳	1m91		走 高 跳	1m63	
砲 丸 投 (5.000 kg)	14m50	東出太陽 (佐井 3)	砲 丸 投 (4.000 kg) (2.721 kg)	11m20 13m80	田中杏実 (三厩 3)	
B	100m	11 秒 20		100m	12 秒 50	
	1500m	4 分 10 秒 00		1500m	4 分 36 秒 00	
	110mH (0.914m/9.14m)	15 秒 30		100mH (0.762m/8.00m)	14 秒 90	
	走 幅 跳	6m35		走 幅 跳	5m35	
	砲 丸 投 (4.000 kg) (5.000 kg)	14m50 13m00		砲 丸 投 (2.721 kg)	12m45	
C	100m	11 秒 80	水野琉之介 (浦町 1)	100m	12 秒 80	
	1500m	4 分 25 秒 00		800m	2 分 18 秒 50	
	走 幅 跳	5m80		走 幅 跳	5m00	
A B C 共通 (中学生のみ)	円 盤 投 (1.500 kg)	39m00		円 盤 投 (1.000 kg)	34m00	
	ジャベリックスロー (0.300 kg)	1 名		ジャベリックスロー (0.300 kg)	1 名	
	※4×100mR	1 チーム (県選抜)		※4×100mR	1 チーム (県選抜)	

※ は本競技会で採用する規格

**2018年度 第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会県予選会
競技注意事項**

1 競技規則について

(1) 本大会は、2018年度(財)日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会申し合わせ事項により実施する。

2 練習について

- (1) 練習は、別添の「練習会場使用日程」に従い実施すること。
 (2) 練習は、原則監督の付き添いの下、安全に留意して事故防止に努めること。

3 招集について

- (1) 全ての競技の招集所は100mスタート付近スタンド下に設置する。
 (2) 招集開始時刻(点呼開始時刻)及び招集完了時刻(移動開始時刻)は、競技開始時刻を基準として下記の通りとする。

種別		招集時刻		予 選		決 勝	
		開 始	完 了	開 始	完 了	開 始	完 了
トラック 競 技	1組～5組	25分前	15分前	25分前	15分前		
	6組～10組	15分前	5分前	※	※		
跳 躍 競 技		※	※	40分前	30分前		
投てき 競 技	砲丸投	※	※	25分前	15分前		
	円盤・ジャベリック	※	※	30分前	20分前		

(3) 招集の方法

- ① 競技者は招集開始時刻(点呼開始時刻)までに招集所に集合して、競技者係より点呼を受ける。その際、ユニフォーム、ナンバーカード、競技用シューズ、商標および競技場内への持込物品などについて確認を受ける。なお、携帯電話などの通信機器は競技場内に持ち込んではいない。持ち込んだ場合は失格とする場合がある。代理人による最終点呼は認めない。
 ② 点呼終了後、招集完了時刻(移動開始時刻)に競技場内のスタート地点に移動する。原則としてすべて係員の指示誘導に従う。移動は、スタンドの外を通ることとし、スタンド前を通らない。
 ③ 招集所は、当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。

(4) 招集の留意点

- ① 出場すべき競技種目を棄権する場合は、「欠場届」(プログラムに掲載)に顧問または監督が記入し、招集開始時刻までに招集所の競技者係に提出すること。
 ② 同時刻帯に2種目兼ねて出場する競技者は、あらかじめその旨を本人または代理人が、招集所に用意してある「多種目同時出場届」に記入し1種目目の招集時に招集所へ提出する。競技については担当競技役員に申し出て指示に従うこと。
 (a) フィールド競技に戻った場合、競技が終了していれば追加試技は行わない。
 (b) 走高跳においてはパス扱いとし、戻った時の高さから始める。
 (c) 走幅跳および砲丸投、円盤投、ジャベリックスローについては、競技に戻った時点のラウンドの試技を認めるが、トップ8が確定してからの試技は認めない。
 ③ 招集完了時刻に遅れた競技者は棄権したものとして処理する。

(5) 招集に関する提出書類は次のとおりである。

書類の種類	準備場所	提出場所	提出時刻
欠場届	プログラム掲載	招集所競技者係	招集開始時刻
多種目同時出場届	招 集 所	招集所競技者係	招集開始時刻

4 ナンバーカードについて

- (1) ナンバーカードは配布されたままの大きさと胸部と背部に確実につける。ただし、跳躍種目に出場する競技者は、胸部または背部の一方でよい。折り曲げたり、手書きのものは認めない。
- (2) 腰ナンバーカードについて
 - ①トラック競技に出場する競技者は、配布された腰ナンバーカードをランニングパンツ（タイツ）の右やや後方につけること。
 - ②腰ナンバーカードは、招集所で配布する。競技終了後、ゴール地点でゴミ箱に入れること。
- (3) 特別ナンバーカードについて
 - ①特別ナンバーカードは、招集所で配布する。なお、招集所での点呼の際は胸部の正規ナンバーカードは着用せずに持参し、招集所で配布される特別ナンバーカードを着用すること。特別ナンバーカードは競技終了後、ゴール地点で回収する。
 - ②3000m 競技は、招集所で配布される周回確認用の特別ナンバーカードを胸部に使用する（背部はプログラム記載のナンバーカード）。

5 番組編成について

- (1) 予選におけるトラック競技の組合せ及び走路順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の左側の番号で示す。
- (2) トラック競技の準決勝以降の組合せ及び走路順は、主催者が公平に抽選して決定し、決定次第招集所の掲示板に掲示する。
- (3) トラック競技において、プラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者がでたとき（以下同タイム者という）は、次の方法で決定する。
 - ①100m・200m・ハードル種目の同タイム者については、細部（電気計時 1/1000）まで読み取り着差の判定をする。それでも判定できない場合は、同タイム者または代理人によって抽選する。
 - ②800m・1500m・3000m の同タイム者については、細部（電気掲示 1/1000）まで読み取り着差の判定をする。それでも判定できない場合は、次のラウンドに進むことができる。その際、最終枠の同記録者で抽選を行う。同記録者が 2 人のとき、9 人目の選手が入るのは 8 レーンとする。その場合、外側 2 レーン中位グループで抽選を行う。同記録者が 3 人の場合、10 人目の選手が入るレーンは 2 レーンとし、内側 2 レーンは下位グループで抽選を行う。

6 競技について

- (1) トラック及びフィールド内には、その競技を行う競技者並びに役員（審判員および該当補助員）以外は立ち入ることはできない。
- (2) 競技中の助力については、規則第 144 条に基づくものとする。ただし、競技区域内での助力は禁止とするが、スタンドからの助言については、競技運営並びに他の競技者の妨げにならない範囲で、コーチングエリア内に限って認めるものとする。

(3) 競技者は、当該競技場を勝手に離れることはできない。また、ビデオカメラ・オーディオプレーヤー・トランシーバー・携帯電話もしくは類似した機器を競技区域内に持ち込むことはできない。

(4) トラック競技について

- ① スタートの合図は英語で行う。不正スタートをした競技者は、一回目から失格となる。
- ② スタートについて（本競技会における第 162 条 5 の取り扱い）
 - (a) 合図の後で正当な理由もなく手を挙げたり、立ち上がった場合
 - (b) 合図に従わない、遅れることなく速やかに最終の用意の位置につかない
 - (c) 合図後、大きな音声や動作、その他の方法で他の競技者を妨害したとき
 これらの不適切行為を行ったときには警告対象としてイエローカードを提示することがある。2枚のイエローカードの提示を受けた競技者は当該種目のみ失格とする。また、「Set」後タイミングを遅らせて腰を上げる、体が静止しなかった（ピクッと動く、腰のふらつきなど）場合には注意にとどめるが繰り返し行われたときはイエローカードを提示することがある。このときも2枚のイエローカードで当該種目は失格とする。
- ③ トラック競技の着順と計時は原則として写真判定（1/1000 秒）で行う。
- ④ セパレートレーンで行うトラック競技における欠場者のレーンはそのままあけておく。
- ⑤ セパレートレーンで行うトラック競技では、競技者は安全確保のためフィニッシュラインに通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走って終了する。
- ⑥ トラック競技の競技者の退場は、フィニッシュラインに到着後、ゴール側ゲートから退場する。

(5) フィールド競技

- ① 公式練習は2回とし、競技場および競技区域内での練習は審判員の指示により行う。
- ② 走高跳を除く跳躍種目およびジャベリックスローの競技者は、助走路の外側に主催者の用意したマーカーを2個まで置くことができる。また、走高跳競技に出場する競技者は、助走路内に各自が用意したマーカー（粘着テープ）を2個まで置くことができる。
- ③ 投てき競技の計測は、光波測定器を使用する。ただし、砲丸投についてはメジャー計測とする。
- ④ 記録計測については、全員1回は計測を行う。以後は、以下の計測標準記録の設定に従って計測を行う。ただし、計測標準記録は天候その他の事情により、変更する場合がある。

計測標準記録	A 男子	砲丸投	9m50	A 女子	砲丸投	8m50
	B 男子	走幅跳	5m30	B 女子	走幅跳	4m30
		砲丸投	9m50		砲丸投	7m50
	C 男子	走幅跳	4m50	C 女子	走幅跳	3m70
	共通男子	円盤投	20m00	共通女子	円盤投	10m00
		ジャベリックスロー	35m00		ジャベリックスロー	20m00

- ⑤ 走高跳におけるバーの上げ方は、最後の一人になる場合を除き、次のとおりとする。下記のバーの上げ方は、天候その他の条件によって変更する場合は当該審判長が決定する。第1位に同順位者が出た場合、順位決定のためのバーの上げ下げは、走高跳2cm単位とする。

種目	練習	1	2	3	4	5	6	7	8	9	以降	J0標準
A男子走高跳	1.55	1.60	1.65	1.70	1.75	1.80	1.85	1.88	<u>1.91</u>	1.94	3cm刻み	1.91
A女子走高跳	1.30	1.35	1.40	1.45	1.50	1.55	1.60	<u>1.63</u>	1.66	1.69	3cm刻み	1.63

- ⑥ フィールド競技の競技者の退場は、係員の指示誘導による。

- (6) 競技規則第 145 条 2 及び第 162 条 5 の適用により、本競技会中に不当な行為（非社会的行為などが相当）で警告を 2 回受けた競技者は本競技会における以後のすべての種目に出場できなくなる。
- (7) 競技結果などは記録処理終了後、随時、青森陸上競技協会HPにて発表する。
(大会プログラム表紙のQRコードを参照してください)

7 競技用具について

- (1) 競技者が本大会で使用する用具は、原則として全て主催者が用意したものを使用すること。
- (2) 競技者個人の器具は、練習用といえども競技区域内に持ち込んで서는ならない。

8 スパイクシューズの制限について

- (1) スパイクの本数は 11 本以内とする。スパイクの長さは、9mmを超えてはならない。走高跳競技においては 12mmを超えてはならない。直径は、先端が 4mm以内でなければならない。

9 抗議について

- (1) 競技の結果または行為に関する抗議は、規則第 146 条に基づき、正式に結果が発表されてから 30 分以内に、また、次のラウンドが行われる種目ではその結果が発表されてから 15 分以内に、競技者自身または代理人が口頭で審判長に申し出る。
- (2) 口頭での抗議に対する裁定に不服の場合は、その競技者にかわる責任者（監督）が当該総務員を通じてジュリーに文書と預託金 1 万円を添えて正式な抗議の手続きをとる。この預託金は、抗議が受け入れられなかった場合は没収される。

10 競技者の競技場内への持ち込み物品について

- (1) 競技者は競技場内（練習場も含む）に、企業名、商標名等のついた物品を持ち込む場合は、規定にあったもの以外持ち込んで서는ならない。
- (2) 商標について
商標等の規定については、「競技会における広告および展示物に関する規定」に違反したものについて主催者で処置する。

① 上半身の衣類（ベスト・レオタード等）

- ・ベスト：衣類の製造会社名/ロゴを前に 1ヶ所表示できる。その大きさは、各文字が高さ 4 cm 以内、トータルロゴの高さは 5 cm 以内で、面積 30 cm²以内の長方形とする。
- ・レオタード：衣類の製造会社名/ロゴを前に 1ヶ所または 2ヶ所表示できる。1ヶ所の場合は、文字の高さ 4 cm 以内、トータルロゴの高さは 5 cm 以内で面積 30 cm²以内の長方形とする。2ヶ所の場合はウエストより上部、下部にそれぞれ 1ヶ所とするが、それぞれの表示が接してはならない。それぞれの文字の高さは 3 cm 以内、トータルロゴの高さは 4 cm 以内で、面積は 20 cm²以内の長方形とする。
- ・トップス、トレーニングウェア上衣、Tシャツ、トレーナー、レインジャケット：衣類の製造会社名/ロゴを衣類の前（右胸か左胸）に 1ヶ所表示できる。その大きさは、各文字が高さ 4 cm 以内、トータルロゴの高さは 5 cm 以内で、面積 40 cm²以内の長方形とする。

- ②下半身の衣類（ソックス・ショーツ・タイツ等かぎ〔レオタードを除く〕）
 - ・製造会社名/ロゴを1ヶ所表示することができる。高さは4 cm 以内、面積 20 cm²以内とする（ソックスは高さ3 cm 以内、面積6 cm²以内とする）。
- ③競技中に競技者によって使用されるその他の衣類（ヘッドギア・帽子・ヘッドバンド・手袋・メガネ・サングラス・リストバンド等）
 - ・製造会社名/ロゴを衣類1つにつき1ヶ所表示することができる。面積は6 cm²以内とする。
- ④バッグ
 - ・製造会社名/ロゴは、各バッグ2ヶ所まで表示することができる。それぞれの表示の大きさは25 cm²以内とする。

11 表彰について

- (1) 各競技種目の表彰は第8位までとする。
- (2) 表彰対象競技者は、競技終了後直ちに、表彰控え場所へユニフォームを着用して集合すること。他の競技時刻と重なる場合は代理人をたてること。
- (3) 表彰場所は、主競技場メインスタンド前で行う。状況等によってはメインスタンド下で行う。

12 ジュニアオリンピック（全国大会）の手続きについて

- (1) 今大会でジュニアオリンピック大会の参加標準記録を突破した者は、その出場資格を得る。結果が判明したら、ただちに本部内「青森陸上競技協会強化部」で手続きを行うこと。
- (2) 参加標準記録を突破していない種目や参加標準記録が設定されていない種目は、該当する種目で優勝した競技者が、その出場資格を得る。結果が判明したら、ただちに本部内「青森陸上競技協会強化部」で手続きを行うこと。

13 その他

- (1) 救急、救護に関する処置は、メインスタンド下の医務室で応急処置のみ行う。
- (2) 救急車などの緊急車両を手配する事態が起こった場合、一刻を争う事態でない限り大会本部及び競技場側の許可なく手配しない。手配する場合は、大会本部より車両の手配を行うため、詳細を含め大会本部に連絡する。
- (3) コーチングエリア内の立ち入りは、各校顧問・コーチを優先すること。
- (4) テント等の設営は、競技場のサイドスタンド及びバックスタンドの芝部分に設営すること。通路を妨げて設営したり、柵へ取り付けたりしないこと。また、競技終了後は、毎日たたむこと。
- (5) 競技場内の更衣室は使用してもよいが、休憩場所や控え場所としての使用は禁止する。
- (6) 届けられた遺失物については、大会本部で保管する。
- (7) 応援はスタンドで行うこと。ただしメインスタンドでの集団応援は禁止する。競技者や競技運営に支障のないように十分配慮すること。特に、フィールド競技の進行に支障のないように十分注意すること。
- (8) 盗難等がないよう持ち物及び貴重品の管理には十分注意すること。
- (9) 招集所からスタート地点への移動は、原則とし、スタンドの外を通ること。スタンド前は絶対に通らないこと。
- (10) その他、不明な点は大会受付・大会本部に問い合わせる。

2018年度 全日本中学校通信陸上競技大会 青森大会
<競技場使用についての注意事項>

1 競技場の開門・閉門時刻

	8月25日(土)
開 門	6 : 3 0
閉 門	1 7 : 0 0

2 競技場の使用について

- (1) 競技場での練習の際は、安全に留意し、監督の責任の下、練習を行ってください。
- (2) 競技場での練習については、別添の「練習会場使用日程」を参照してください。

3 テント設営、横断幕・のぼりの設置について

- (1) 競技場周辺芝生部分はテント設営可能です。メインスタンドに、テントやタープ等を設営しないでください。通路を妨げたりフェンスに紐を結びつけての設営はおやめください。
- (2) 競技終了後、テント・タープ類は必ずたたみ、忘れ物がないようにお帰りください。
- (3) テント設営場所は「県中体連 各地区中学校テント配置」を参照してください。
- (4) 横断幕は、メインスタンド最上段、芝スタンド前のフェンスに設営してください。競技を行う上で支障があるときは、取り外してもらうこともあります。
- (5) 横断幕は1校1枚でお願いします。のぼりは、芝スタンド後ろのフェンスに設営してください。

4 駐車場について

- (1) 大型バス・マイクロバスなどいずれのバス、乗用車とも、すべて駐車場に駐車してください。
- (2) 救急車両等の通行の妨げとなるので違法駐車はしないでください。
- (3) 自動車およびいずれのバスもアイドリングストップに協力してください。監督は、保護者やバスの運転手にアイドリングストップに協力して頂くよう大会前に確実に連絡を行ってください。

5 ゴミ処理について

- (1) ゴミは、各校(各自)でゴミ袋を準備し、持ち帰ることを原則とします。
- (2) ゴミ、タバコの吸殻等のポイ捨てはしないでください。

6 その他

- (1) 置き引き、盗難等の発生する恐れがあるので、貴重品の管理は、各校の責任で十分注意してください。荷物を置いたまま、その場を離れることは絶対にしないでください。
- (2) 公園内施設(トイレや更衣室等)は正しく使用してください。器物や動植物等に悪戯をしないでください。
- (3) 競技場規則および申し合わせ事項に従い、ルールとマナーを守ってください。

2018年度 全日本中学校通信陸上競技大会 青森大会
<練習会場使用日程>

【練習日時】

8月25日（土） 7：00～8：20 ※監督の責任の下で行ってください。

【主競技場】トラック・跳躍

主競技場のレーン使用区分等は、以下の通りとする。

レーン区分		
①	トラックの外周芝及びフィールド内の外周芝はジョギング	
②	周回1・2レーンは中長距離、タイムトライアル用	
③	周回3・4レーンは200m・400m スタートダッシュ用	
④	ホームストレート3・4レーンは100m・流し・スタートダッシュ用	
⑤	ホームストレート5レーンはB女子100mH（高さ0.762m、ハードル間8.00m）	
⑥	ホームストレート6レーンはA女子100mYH（高さ0.762m、ハードル間8.50m）	
⑦	ホームストレート7レーンはB男子110mH（高さ0.914m、ハードル間9.14m）	スタートダッシュ用
⑧	ホームストレート8レーンはA男子110mJH（高さ0.991m、ハードル間9.14m）	スタートダッシュ用

70m

【主競技場】投てき

- (1) 砲丸投は主競技場内の砲丸投ピットに限り、投てき練習を可とする。
- (2) 公式練習以外で円盤・ジャベリックを実際に投げる投てき練習は終日禁止とする。
- (3) 円盤投は主競技場の円盤投ピットのサークル内で、ターンの練習のみ可とする。
- (4) ジャベリックスローは主競技場のやり投ピットの助走路での足合わせ、助走練習のみ可とする。

【練習会場での注意事項】

- (1) 練習は指定された練習会場で、監督の立ち会い・責任の下、上記の指定された時間で行うこと。
- (2) 練習会場には、選手、監督・コーチ以外立ち入らないこと。
- (3) 練習会場、特に砲丸投（投擲ピット）では危険が伴うので、練習は十分注意して行うこと。レーンを横切る際は、前後左右を確認し、安全に留意する。
- (4) 練習会場において次の行為を禁止する。
 - ①ミニハードル、ラダーなどの練習用具を使用する練習。
 - ②トラックでの逆走、集団ジョグ、準備運動、ドリル等の技術練習。
 - ③急に減速したり、立ち止まったりする行為。
- (5) 全天候舗装の走路は、9mm以下のスパイクを使用すること。ただし、走高跳・ジャベリックスローについては12mm以下とする。
- (6) 練習会場において、全日程を通して競技の終了した種目の用器具は準備しない。
- (7) 主競技場のメインスタンド下中央通路での練習は禁止する。
- (8) 使用した用器具やマーカー（粘着テープ）は、きちんと片付けること。